



地域との絆を 明日の防災につなげる



香川大学防災サポートチーム

このチームは、防災士資格を持つ「防災士クラブ」に所属する学生と、大規模災害時に学内に設置される避難所の運営サポートを行う「高松市消防団機能別分団」に所属する学生を中心に構成されています。平成30年7月豪雨をきっかけとして、吉田町玉津地区を中心に宇和島の復興に関わり続けて来ています。



平成30年7月豪雨災害の学生ボランティアに香川大学の学生が参加していたことから、香川大学と宇和島市のつながりが生まれまし
た。8月号で紹介した柑橘農家の
中島さんにとって、はじめて受け
入れたボランティアでした。
香川大学では講義で防災を学ぶ
コースがあり、中でも復興の現
場を見る機会はとても重要だそう
で、内容を中島さんたちと一緒に
考えながら、定期的に宇和島に
来て活動を行っています。9月にも
防災に関心がある学生29人が訪
れ、農家の手伝いや土のう作りな
どを行いました。いつも温かく迎



え入れてくれる農家のみなさんに
学生たちも安心感を持っているそ
うで、コロナ禍でなかなか計画で
きていませんが、感謝の意味を込
めて地域ぐるみのイベントを開催
したいと考えているそうです。今
回参加した4回生の筒井麗奈さ
んは「現地に来て、自分にも役に
立てることがあるんだと実感し
た。今後でもできる限り関わり続
けたいし、防災に取り組む学生の輪
が広まっていけば嬉しい」と話
してくれました。
災害をきっかけに生まれた香川
大学と宇和島の絆は、今後も長く
太く続いていくことでしょう。